

平成30年度 11月定例記者会見 会見録

日時 平成30年11月15日（木）午後2時～2時30分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、今月19日から開催されます市議会定例会議で提案させていただく補正予算についてでございます。主な内容としては、まず、風しんの抗体検査と予防接種費用の助成対象者の拡充に伴う経費がございます。本市では、これまで、妊娠を希望する未経産婦に限って助成を行ってまいりましたが、全国での風しん患者数が昨年の20倍となり、現在も首都圏を中心に流行が拡大している状況から、助成対象者を、妊娠を希望する全ての女性とその配偶者、及び妊婦の配偶者にまで拡充し、今月中には実施したいと考えております。妊婦が風しんに感染すると、生まれてくる赤ちゃんが難聴や白内障などを引き起こす危険性があることから、対象となる方はこの制度を利用し、安心して妊娠、出産に臨んでいただきたいと思っております。また、台風24号の影響により、通行止めとなっている国道413号について、今年度末に開通できるよう、復旧にかかる経費も計上させていただいております。このほか、公共工事の早期発注や施工時期の平準化を図るための、いわゆる「ゼロ市債」を活用した債務負担行為の設定や、市立小学校へのエアコン設置の経費など、総額3億5千万円の補正予算案を提案させていただきます。

次に、幼稚園における2歳児の一時預かり事業についてです。本市における保育需要は共働き世帯の増加などにより、年々増加しております。特に、待機児童の約7割を占める1・2歳児については、本年4月から、新設保育所等の空きスペースを活用し、1年度間の期間限定でお預りする「年度限定保育事業」を実施しております。さらに、平成31年4月からは、幼稚園におきましても、空きスペース等を活用した2歳児の一時預かり事業をスタートしたいと考えております。今後も、民間の保育所、幼稚園等の皆様のご協力をいただきながら、保育需要の高い地区や年齢を中心に受け入れ枠の増加を図るなど、実効性の高い待機児童対策に取り組んでまいります。

次に、スポーツ施設のネーミングライツの募集についてです。本市では、公共施設等の更なるサービス向上のため、ネーミングライツの導入に取り組んでおり、今回は、総合体育館と、総合水泳

場へのネーミングライツ・スポンサーを募集することといたしました。両施設とも、東京オリンピックに向けて、ブラジル選手団が事前キャンプを行うことが決定しております。また、総合水泳場では来年3月に本市で初めての世界大会となる「FINAダイビングワールドシリーズ2019相模原大会」が開催されます。ネーミングライツ・スポンサーとなることで、大きなPR効果が期待できますので、是非、ご応募いただきたいと考えております。

続きまして、12月8日（土）、9日（日）にアリオ橋本で開催する「はやぶさ2応援イベント」についてでございます。6月に小惑星リュウグウに到着した「はやぶさ2」は、来年1月下旬以降、タッチダウン（着陸）にチャレンジする予定であると伺っております。「はやぶさ2」が無事に使命を果たせるよう、応援イベントを開催するものです。当日は、JAXA職員による「はやぶさ2」のミッション解説や、小学生を対象とした宇宙の仕組みを学べる教室の開催、「はやぶさ2」の模型やパネル展示、映像の放映などを実施します。大人から子どもまで、楽しみながら宇宙の魅力を感じていただける内容となっておりますので、多くの方にご来場いただければと思います。

最後に、11月4日に現役引退を発表されたSC相模原の川口能活選手についてです。川口選手は、平成6年から25年間にわたり、プロの世界で活躍され、日本代表としても素晴らしいプレーを魅せてくれました。2016年シーズンにSC相模原に移籍されてからは、チームの中心として、若手選手の育成にも尽力されたほか、本市のイベントにも参加していただくなど、スポーツ振興やシティセールスにも大いに貢献していただきました。川口選手のこれまでのご尽力に感謝するとともに、今後、新たなステージでも活躍されることを期待しております。

私からは以上でございます。

（記者）

昨日、SC相模原に所属している川口能活選手の引退会見が行われました。川口選手は会見で、自分が当たり前と思っていたことが、当たり前ではなかったことが再認識できたSC相模原での3年間だった、と言っていました。相模原に非常に強い思い入れを持っていると思います。そこで、市では、川口選手が12月2日に引退した後、セレモニーなどを企画されていますか。

(教育長)

川口選手と市長との面会についてＳＣ相模原と調整しているところです。その際に、できれば多くの方が川口選手と会えるようにしたいと考えております。

(記者)

年内に開催されますか。

(教育長)

シーズン終了後になりますので、１２月、もしくは１月になるかと思えます。

(記者)

１１月３日に小原宿本陣祭を見させていただきました。市長も１日お疲れさまでした。あのような本陣を、そのまま残していくというのは非常に大変なことだと思いますし、実行委員会の方があそこまで作り上げているお祭りというのはなかなかないと思います。本陣も非常に良い施設だと思いますし、祭りも継承していただきたいと思います。

(市長)

小原宿本陣は、神奈川県下に唯一現存する本陣で、本市の貴重な財産ですので、地域の方もそれをしっかり守って、継承していきたい、また、地域の振興策に繋げたいという思いがございます。本市といたしましても、本陣を保存し、地域の皆さんとこれからも連携して地域文化を伝承できるよう、支えていきたいですし、しっかり残せるようにしていきたいと思っております。

(記者)

小原宿本陣のある相模湖は、２０２０東京オリンピック競技大会で、カナダのボートチームのキャンプ地にもなっていますよね。

(市長)

相模湖は、カナダのボートチームが事前キャンプを実施するという事で、カナダの選手が大いに活躍できるよう、地域の皆さんと支えていくとともに、地域振興に繋げることで地域が元気になれるよう、様々な地域の特性を生かしながら、我々もまちづくりを進めていきたいと思っております。

(記者)

相模総合補給廠に第38防空砲兵旅団の司令部が移駐した件について伺います。昨日は市長がキャンプ座間に行き、今後の話を司令官から聞いてきたと思いますが、すでに移駐し、運用が始まっているということについて、今どのように受け止めているか、改めてお話しいただけますか。

(市長)

昨日、相模総合補給廠に第38防空砲兵旅団の司令部が移駐した件に関しまして、関係者の方に対して要請活動を行いました。私はキャンプ座間、外務省、防衛省に、市議会議長にはアメリカ大使館、厚木基地に行っていました。司令部の移駐に関しては多くの市民が大変心配をしているかと思しますので、我々も、それぞれの関係者に対して、司令部の任務や運用など、詳細を明らかにすることや、司令部駐留が補給廠の機能強化につながることはないこと、補給廠周辺に騒音などの影響を及ぼすことはないことを強く要請してまいりました。これに対しまして在日米陸軍からは、補給廠の主要任務が兵站業務であることは今後も変わらないこと、この司令部は朝から夕方までの、いわゆる日勤体制であること、段階的に要員を配置していくため、定員数については現在10名程度であること、また、司令部の詳細が明らかではない、ということに対しては、地元の方に説明する機会について検討したい、というお話をいただきました。以上のようなお話でございますから、昨日の要請の段階では、第38防空砲兵旅団司令部がどのような業務なのかは具体的に明らかにされないということでしたので、明らかにしていただくことを、外務省、防衛省に強く求めてきました。

(記者)

基地の機能強化になってはならないというお話もありましたが、実際これまでに分かっていることとしては、青森、京都、グアムを指揮、統制するミサイルの防衛部隊の司令部が移駐した事実があり、私から見ると機能強化に当たると思うんですがいかがでしょうか。

(市長)

そのことについて国からは、要員が駐留するのみで、装備の導入は行わないため、基地の機能強化に当たらない、そのような回答でございましたが、詳細な説明を受けているわけではないので、

しっかりと内容把握をして、情報提供をしていただきたいというお話をさせていただきました。

(記者)

市長自身は、移駐には反対なのでしょうか。

(市長)

私個人の意見というよりは、本市は市民協議会において、基地の整理縮小、返還、これを求めているわけですから、先ほどから申し上げておりますとおり、基地の機能強化に繋がることがあっては困りますので、当然そういう意味においては反対ということになるかと思えます。

(記者)

キャンプ座間には、10年ほど前に米軍の第一軍団の司令部が来るという事前予告があった時に、当時の小川市長が反対して、「戦車に轢かれても容認しない」という話を聞いたことがあります。確か、加山市長が助役だった時だと思えますが。

(市長)

その時でしたでしょうか。

(記者)

はい、命がけで反対するという気持ちを小川市長が表明していました。結果として、第一軍団が移駐しましたが、補給廠の、当時の西側野積場の共同使用に繋がったのかと。

(市長)

その時は、日本にある基地の再編成問題が起きていた時で、当時、市長は小川市長、私は助役という立場で、直接の調整は私がやっておりました。当時、再編問題の中では、返還問題、普天間の問題、岩国飛行場の問題、艦載機の移駐の問題、相模総合補給廠の返還など、総合判断の中でやり取りをしてきました。神奈川県や座間市、本市を含めて、県としてどのような対応をするのか、ということ調整しながら、再編問題も取り組んできたわけです。そのような中で本市の場合は、一部返還地と共同使用区域を合わせた52ヘクタールを利用できるようになってきたという結果があります。交渉経過の中で、基地の返還が実現したり、共同使用に結び付けたりするには、大変な労力や、やり取りが必要になります。そのやり取りの中で、市の強い姿勢として、市民の生活、または市の発展のため、マイナスになるような内容については、やはり体を張っても反対するという

意思表示を小川市長が示したということがあったと思います。その結果が、基地の返還や、一部共同使用、または返還4事案の交渉にも繋がったと思っております。

(記者)

今回中間報告もなく、事前通告もなく、急に移駐してきた上、移駐後にも説明が足りないという状況ですが。

(市長)

防衛省も外務省も、基地の機能強化ではないと言っているように、認識としては、現状の運用の中の一連の動きだということだと思えます。しかし、我々としては、実際には、詳細は明らかにされておりましたが、ミサイルやレーザー対応など、様々なことを指揮する機能の移駐は、基地の機能強化に繋がるという考え方を持っておりますので、やはり我々が納得するような説明、または、むしろ事前にですね、そういう協議をしていただくべきだということを強く要請させていただきました。

(記者)

今、国会で外国人の労働者の受け入れについて審議されております。相模原にも外国人労働者が多くいると思いますが、今回の国の動きについて、市長の所感を伺います。

(市長)

人材不足など、様々なことを考えますと、外国人労働者の受け入れ拡大の条件緩和と言いましょいか、そういったことを考えていく必要があると思えます。国も、日本だけの理屈で考えるのではなく、外国人就労者が日本で働けるよう、働きやすい環境を作る、そういう方向をしっかりと示していった方がいいと思えます。人口減少社会により生産年齢人口が減っていく中、建設分野や福祉関係は特にそうですが、人材不足となっております。今の人口構成や制度の中で対応できるとは思えませんので、国際協調の中で様々な視点を持ちながら、受け入れ体制の内容の拡充や緩和をしていくことが大事だと思っております。

(記者)

昨日から相模原マルシェが、伊勢丹相模原店で開催されています。伊勢丹相模原店は来年の9月に閉店しますが、その後の跡地利用について、何か決定していますか。

(市長)

伊勢丹の撤退表明後、問い合わせがいくつかあるということは聞いております。我々としては、まちづくりの整備計画というものを地域と一緒に作っておりますので、伊勢丹には、後継の開発者に、まちづくりの方向性を損なわないようしっかり引き継いでいただくよう申し伝えております。今後、様々な引き合いがあろうかと思いますが、まちづくりに合うような開発を進めていただくよう、指導していきたいと思っております。簡単に言いますと、駅から雨に濡れないようなコリドーや、それぞれの街区に人が回遊できるようなペDESTリアンデッキをこれからも整備しようとしておりますし、また、あそこには公共施設、例えば文化ホール、図書館、公園、メディカルセンターなどがございますので、そことの連絡性が損なうことがないよう、次の所有者が、まちづくりの方向性は継承していただくよう、指導はしていきたいと思っております。

以 上